『スロー』

作　桑森ケイ

舞台はとあるボールの製造工場。
ボールの材料となるカプセル置き場、中身となる何かの源泉、組み立てラインからなる。
今はシートなどが掛けられている。

男1，2入場。
その挙動は非常にゆったりとしている。

1　点呼！
2　1！
1　2。異常なし。体操！

男1，2、好き勝手に体操をする。
やはりその動作の一つ一つがゆったりとしている。
その口調も、やはりゆったりとしているのである。

1　体操やめ！ 連絡事項！
2　……。
1　なし。それではこれより本日の業務に入る。今日のノルマはノーマル7つ、スーパー3つです。緩慢かつ迅速に。余った時間を有意義に。それでは今日も、
2人　幸せキャッチ！ 幸せシュート！ あなたのナイスバッテリー。幸せ、幸せ、幸せボール！
1　……はい。それでは作業開始。

男1，2、機械のシートを外し今日の作業を始める。
作業BGMが流れはじめる。
男2がカプセルに何かを詰めてベルト上を流し、男1が検品しているようだ。
全体的に作業のスピードは遅い。

1　ヘイ、ジョン。調子はどうだい？（ト、手に持つボールに話しかける）
2　……。
1　可。と。（ト、ボールを可のボックスへ入れる）ヘイ、ジョン。調子はどうだい？
2　……。
1　よし。ヘイ、ジョン。調子はどうだい？
2　とってもいい感じ！
1　うーん。いいねジョン。これはスーパーだ。（ト、ボールを優のボックスへ入れる）ヘイ、トム。調子はどうだい？

2　……。

女入場。
作業風景を眺めている。

1　可。ヘイ、トム。調子はどうだい？
2　とーってもいい感じ！
1　素晴らしい。文句なし。（ト、ボールを優のボックスに入れる。）
2　あと4つ、1つだよな？
1　おーい、そういうことは声に出して言うもんじゃない。感じ取れ感じ取れ。
女　あの……
1　ん、お、姉ちゃん。（ト、女の方へ向かっていく）悪いね。来週から5日にいっぺんの配達にしてくれるかい？（ト、財布から120円を取り出し女に渡す）

女、受け取り、しげしげと硬貨を眺める。
男、新聞を受け取ろうとして手を差し出す。

女　これがもしかして、円、ですか。

女の話すスピードは通常だ。

1　ん？
女　これ、円じゃないですか？
1　ごめん、もう一回。
女　これ、円の硬貨ですよね。
1　ごめん、ゆっくり言ってくれる？
女　これ、円ですよね？（ト、非常にゆっくりしゃべる。）
1　うん。
2　何を言ってるんだ。
女　あ、すいません。初めて見たので。
1　ん？
女　初めて見ました。（ト、非常にゆっくり話す。）
2　そんなわけあるかよ。
1　ちょっと怖い。
女　あ、すみません、申し遅れました。地上からインターンでやってきました。今日から一週間、こちらでお世話になります。よろしくお願いします。
1　ん？
女　いやいやいや、「ん？」じゃないでしょ。いいかげん慣れてくださいよ。（以下、怒涛の長ゼリフ。男たちを批判し、社会と自身の身の上を嘆く。）
2　……。ラジオ？

1　正解！
女　不正解よ！（以下、怒涛の長ゼリフ。こちとら生きてる女の子じゃい。）
2　……。うるさいブス。
1　正解！
女　それは正解！って、うるさいわ！
男　どうもありがとうございました〜。
女　ちょっと！
1　よし。作業作業。
女　今日からインターンに来たって言ってるの！
1　インターン？

男1，2、顔を見合わせる。

1　連絡事項！
2　……。
1　なし。
女　なくない！
男　聞いてない！
女　……。
1　返せ。（ト、女が持っている硬貨を取り返す。）
女　あ。
1　よし。作業作業。
女　あの！
1　なに！
女　早く喋れるんですね？
1　うん。
2　俺たち今忙しいんだよね。なに？
女　あぁ、ですから、今日から一週間こちらで働かせていただくことになりました。
1　ここでは受け付けておりませんね。
女　私、地上から来たんです。受け付けてなくても、受け入れるしかないはずですよね？
1　……そういうことは、声に出して言うもんじゃない。かもし出せかもし出せ。
女　？
2　仕方がねぇから受け入れてやるよ。
1　あぁ、詳しい話は後でまた聞こう。ひとまず作業着がいるね。取ってくるからちょっとボーッとしててよ。

男1、ゆっくり退場

女　ボーッとって。

男2、伝説のボー師がごとくボーッとしている。

女　まじすか。

女、荷物を降ろすなどして落ち着く。
工場内を見回し歩く。

2　……コーヒーでも飲む？

女　あ、はい。いただきます。

男2，コーヒーを淹れに行く。
女、舞台の隅の製品見本棚へ。落ちてひっくり返っていたポップを正しい位置に戻す。
『一家にひとつ！ 幸せボール！』の文字が踊っている。
男2，帰ってくる。

女　ここ、これの工場なんですか？

2　そうそう。そういうの聞かされてないんだ？

女　そうですね。

2　幸せボール。流行ってるんだけどね。こっち向けの商品だから知らないでしょう。

女　はい。初めて見ました。

2　遅れてる〜。

女　でも、地下に来たのも初めてですし、私は知らなくて当然ですよね？

2　そりゃそうだけど。今や国民の必需品だよ。

女　その国民に、地上の人間は含まれてません。狭い視野で語らないでください。

2　つっかかるなよ。そんな話はしてないだろ。

女　そんな話かと思いました。

2　すまんすまん。これからは言葉選びに気をつけるよ。

女　そうしてください。

2　ここは、そんな、地下で大人気の幸せボールのすべてを請け負っている工場です。

女　こんな小さな場所で……

2　すごいだろ。

女　というより、地下ってやっぱりたかが知れてるんだなって。

2　……お前さんも少し言葉には気をつけたほうがいいぞ。地下の人間に失礼だ。

女　そうでしょうか。地上におんぶにだっこの地下に敬意は払えません。

2　地下のこと知らないんだろ？

女　教科書に載ってることは知ってますよ。地下にも最新鋭の機械がたくさんあるって聞いてました。これは……

2　俺たちの手作りだ。

女　しょぼいですね。

2　なぁ。俺たちは心のある人間なんだ。そんな事言われたら傷つくって想像できないかな

あ？

女　分かりません。

２　じゃあこれがインターン最初の勉強だ。地下の人間には……にも、心がある。むしろ心を大事にしてる。うちの隣のタカハシさんなんかは毎日庭のトマトの様子を笑顔で語ってくれるし、夏には袋にパンパンに詰めて分けてくれる。そういう人間が暮らしてるんだ。

女　地下でもトマトは育つんですね。

２　そんな話をしてるんじゃない。

女　分かりましたよ。気をつければいいんでしょう？

２　もっとこう、柔軟な姿勢、を心がけてほしい。マルかバツか、だけじゃないんだ。

女　はーい。

間。

２　しばらくここで暮らすんだろ、やるよこれ。

女　ありがとうございます。

２　先月出た新製品。幸せボールポータブル。

女　なんか、いい香りがしますね。

２　よく気が付きました。、実はフレグランスジェルなんだわ。置くだけタイプの芳香剤みたいな。

女　コレが売れてるんですか？

２　うん。みんな持ってる。

女　やっぱり地下は臭い。から。

２　「クサい」ってほどじゃなくて、「ちょっとニオイがこもる」ってレベルだけどな。

女　ふーん。

２　もう一つ売れてる理由がある。

女　……持ちやすい。

２　違う。

女　球体が美しい。

２　そうでもない。

女　コマーシャルで売れっ子を起用してる。

２　なんと、俺が出演してる。

女　ありえない。

２　おいこのやろう。

女　分かりません。

２　まぁ今は分かんなくていいでしょ。インターン中に分かるかもしれない。

女　教えてくれないんですか。

２　自分で見つけなさい。

女　うわ。

２　お前いま、地下の人間の分際で……！ って顔したな？

女　いいえ、してません。

２　その顔だよ！
女　……というか、こんなに作業中断して大丈夫なんですか？
２　それは大丈夫。ノープロブレム。いっつも休憩してる頃だしな。ノルマが終わるメドもついてる。うん。２人から３人にもなるし。
女　そうでした。私、働きに来たんでした。仕事について教えてくださいよ。
２　まだだ。アイツが帰ってきてから。
女　全然帰ってこないですね。
２　おじさんから人生のアドバイスだ。こういう非日常的なイベントは楽しんだほうがいい。
女　まだそんな気にはなれそうにないです。
２　お前さんは……、っていうか、そうだな。いつも周りからなんて呼ばれてる？
女　Ｐ４２０、です。滅多に呼ばれることないけど。
２　あ〜、そう。じゃあもう一つの売れてる理由がわかるまで、お前さんの名前はケリーだ。
女　勝手に決めないでください。
２　うるせぇ。地下には地下のやり方があるんだよ。
女　……。
２　そんな不満そうな顔するなよ。たった一週間だろ？
女　……あなたは何ていう名前ですか？
２　俺は、タカって呼ばれてる。よろしくな。
女　はい。こちらこそ。
２　で、非日常を楽しむとして、逆に、ケリーは日常ではどんなことしてんだ？
女　すみません。そういうことは、言えないことになってます。
２　おいおい、俺たちの仕事については勉強するくせに？
女　地上は地下に優越するんですよ。
２　そうかいそうかい。それがお前のやり方か。
女　私じゃないです。決まってることなので。
２　はいよ。帰ったら向こうでは俺らのことたくさん語ってくれよな。
女　多分それもしないです。
２　かわいくねーやつ！

男１、入場。

１　あったよー。
女　ありがとうございます。
２　遅かったな。
１　ごめんごめん。更衣室は出て左。
女　はい。
１　ごゆっくり。

女、退場

１　なにか話した？
２　柔軟な姿勢を心がけろって言った。
１　おー、攻めたね。
２　結構クセモノだぞ。
１　初仕事だ。気合い入れないと。
２　Ｐ４２０だってよ、第８世代くらいか。
１　そのくらいだな。

少しの間

２　今日どこまでいく？
１　あの娘次第でしょ。
２　そりゃそうだ。
１　ちょっと揺さぶってみよう。乗っかってね。
２　了解。

女、入場。

女　これで大丈夫ですか？
２　早いな。
１　うん。大丈夫。よし、えーと、何さん？　かな？
２　ケリーさんだ。
女　ケリー、です。
１　ケリーさん。その見た目で？
女　その言い方は失礼ですねぇ？
２　そうだ。なんて古い考え方なんだ。
１　いやごめん。昨日観た映画にも出てたんだよ。なんかもっとこう、グラマラスなお姉さんだった。ケリーさん。
女　どうせ私はうるさいブスですよ。
１　うん。
女　ちょっと！
１　まぁいいや、ケリーさん。僕はカズ。そしてタカ。あぁ、申し遅れました。よろしく。
女　……よろしくお願いします。
２　ひどい職場だな。
女　はい。
１　辞める？
２　おいおい、そんな始め方はないだろ。
１　なんだよ、別に俺たちは困らないだろ。
２　それはそうだけど。
女　辞めませんよ。

1　……？
女　一週間は向こうに帰れないので。
1　どういうこと？
女　地上では、決まりごとは絶対なんです。インターンは一週間ですから。
1　他にも仕事はあるよ？
女　それも、ここって決められましたから。
1　あら、そう。かわいそうに。
女　？よく分かりません。
1　……可哀想な女。
女　……それより早く仕事教えてくれませんか？
2　急ぐな急ぐな、人生楽しんだもん勝ちだぞ。へへへ、悪いな。お前さんをこっから帰すわけにはいかないんだ。
1　それも昨日の映画だな？
2　正解。まぁ、そういうとこまで含めて社会勉強ってことだろ。俺らも勉強だ。
1　うん。そうだね。
女　……。
1　よし、仕事に入ろう。ケリーさん。メモの準備だ。
女　はい。

女、透明な板を取り出す。

2　なんだそれ。（ト、女の手から板を奪い取る。）
女　え？メモ帳ですよ。
2　進んでんなぁ。
女　地上の必需品です。（ト、男2の手からメモ帳を奪い返す。）
2　お前ー！
1　はい、説明します。改めまして。僕らの仕事は全部で3つくらい。ボールの製造と受注、納品と材料の注文。新製品の開発、あとはお問い合わせ対応。
女　6つありましたよ？
2　誤差だ。
1　誤差だ。
2　納品は毎週金曜だから今日はない。
1　問い合わせもほとんど来ることはないね。とにかく今日はひたすら、ノルマ分だけ作る。今日は残り……
2　ノーマル4つ、スーパーひとつだ。
1　さすが。今日は普通の幸せボールと、幸せボールスーパーを作ってる。ちなみに明日は、幸せボールポータブルを作るよ。
女　それだけですか？
1　え？
女　仕事、それしかないんですか？

1　うん。
2　変か？
女　あ、いえ。作り方教えてください。
1　オーケー。作業は、さっきケリーさんも見てたかもしれないけど、簡単に見えて結構難しいんだ。僕らは熟練のボール職人だからね、地上のエリートでも難しいかもしれない。ちょっとゆっくりお見せしよう。

男たちは製造ラインに入る。

1　まず、タカが幸せの泉から幸せエキスを適量をすくい取る。幸せの泉。それね。それを送って、来たね。来たらこれを僕が磨き上げて、検品までする。これで幸せボールの完成。
女　信じられないくらいお粗末ですね。
1　ちょいちょいそういう感じ挟んでくるね？
2　こいつは性格が悪いんだ。
女　すみません。
1　許す。
2　地下のお兄さんたちは心が広いんだ。感謝しろ。
女　はぁ。
1　いつもの作業はこれだけ。だけど今日はスーパーも作らなくちゃいけないから、スーパーたる理由付けをする。今日はボールに話しかけてみた。返事が返ってきたらそれはスーパー、本物の証だ。
女　あの、失礼だったらごめんなさい。ふざけてるんですか？
2　失礼だ。
1　失礼だ。
女　ごめんなさい。
1　どうしてふざけてると思う？
女　仕事って、もっと複雑で頭をつかうべきものだから、です。
1　地上ではそう習うのか。
女　あっ。
2　古い価値観だな。
女　……上では今もそうです。最新です。
1　ケリーさん。せっかく地下に来たんだ。地上の価値観を疑おう。それが必ずしも正しいとは限らないだろう。
女　でも、今の日本は敵なしですよ。
1　そうなの？
女　はい。お二人はご存じないでしょうから教えてあげましょう。
1　わぁ、得意気。
2　教えてくれるんだ？
女　少しだけです。今の日本は長年の後進国時代を抜け出して、先進国に返り咲きました。GDP1位、教育水準1位、環境貢献度1位、貧富の格差世界最小。他にもあらゆる面で世

界トップのエリート国家なんですよ。
2　さすが機械に魂を売った国だよな。
女　は？
1　おい。
2　少しだけだよ。地上の、というか国として認められてるのは地上の日本だけだが、その地上ではありとあらゆることを機械がやってるだろ。人間が出る幕なんてほとんどないんだよ。地上では人間は機械に勝てない。
女　それがなにか問題なんですか？
2　問題はないさ。ただ、お前らはそんな地上で便利な存在になるための教育しか受けてない。可哀想に。会ったことのない友達ばかりだろ。ヘタしたら親の顔すら知らないんじゃないか？ そういういろんな足りないものに気づくこともないのさ。このインターンは、そんな地上の人造人間どもの常識をひっくり返すためにあるんだよ。
1　言いすぎだ。
女　知ってるんじゃないですか。地上のこと。
2　え？
1　新聞を取ってるからね。僕らも少しは知ってる。気を悪くさせてごめん。気乗りしないかもしれないけど、ここに居るしかないんでしょ、一週間。受け入れて、やってほしいな。
女　はい。
1　ありがとう。うん。ひとまず試しにやってみよっか。磨き上げるところまで。

女、すくい取りから磨き上げまで、いたって普通の速度で行う。
男たちはあまりの速さに目を丸くする。
男1、検品をして、

1　完璧だ……。
2　どっかでやってたな？
女　いいえ。
1　ケリーさんすごいよ。さすがは地上のエリートだ。
女　どうも。
2　もうちょっと喜べよ～。
女　ははは。
2　おい。
1　ストーップ。いいじゃんいいじゃん、な。よし。じゃあ作っていこう。せっかく3人いるから、分担しよう。ケリーさんは磨き上げをしてくれる？
女　分かりました。

3人での作業を始める。
エキスが詰められ磨き上げられたボールが男1のところへやってくる。

1　ヘイ、ジョン。調子はどうだい？

2，女　……。
1　ノーマル。いいね。ヘイ、ジョン。調子はどうだい？
2，女　……。
1　素晴らしい。そろそろかな、ヘイ、ジョン。調子はどうだい？
2　超いい感じ！
1　いいね！ちょういい！文句なしのスーパー！ヘイ、ジョン。調子はどうだい？
2，女　……。
1　待った。ちょっと量が多すぎるよ、これ。

気がつけば男1の前には検品待ちのボールが渋滞しており、男2は汗びっしょりでヒィヒィ言いながらエキスをすくっている。

1　うぉーっち、ちょっと待った！ケリーさん！もう少しゆっくりやってくれないか。
女　そう言われる気がしてました。
1　そんな急かしたらタカが壊れちゃうよ。おい、ちょっと休んでいいぞ。
2　おう。
1　しかも作りすぎてる！あー！
女　せっかく3人いるのにこれじゃ意味ないですね。
1　意味ないことはないさ。いつもより楽しい。
女　それは意味に入るんですか？
1　入るねー。
女　地下では、仕事に楽しさも必要なんですね。
1　そう。ここでは楽しい仕事をしてもいいんだよ。
女　分かりません。
1　仮にも世界トップのエリート国家で、好きなことをできないほうがワケが分からないよ。
女　分かりますよ。国のためになることをしなくちゃ。
1　まぁ、これは国のためにはならないかもね。
女　ほら。
1　でも、国民のためにはなる。
女　それは地上だってそうです。国家の発展は、国民に様々な恩恵となって降り注ぎます。それに、地上の発展によって地下も潤うんです。カズさんのいった国民っていうのは地下の人間だけですが、私の言う国民は、地上も地下も含めた日本の人間全員です。
1　あぁ、だけど、この仕事はそんな遠回りじゃない。このボールは、手にすることで直接恩恵になるんだ。それはそれで意味があるだろう？
女　でも、こんなこと、機械でもできますよ？
1　あぁ。
女　しかも、より正確に、より速く。
1　あぁ。
女　だったらどうして……
2　頃合いか。

１　だな。ケリーさん。キミは本当は真実を知っているよ。
女　？
１　今まで考えたこともない分野だから、そのことに気づいてないだけなんだ。……キミは、機械でもできる仕事をする人間には価値がないと思っているね？
女　はい。そんなの当然です。
１　地下にはそんな人間ばかりだと。
女　そうじゃないんですか？
１　どうだろう。整理してみよう。まず。機械どもが地上でどんな教育をしてるか知らないけど、いま、日本のGDPは世界一なんだろ？
女　はい。
１　総人口は？
女　２万人です。
１　そう。地上では、その膨大なカネをたったこれっぽっちの人間で分け合ってるんだ。キミは大金持ちなんだよ。
女　そう思ったことはないです。
１　あぁ。キミたちの持ち物になってない。地上のお金はすべてヤツらのものになってる。逆に、地下ではどうだろう。ここは、人間が搾取される地上と違って、主権はこっち、人間にある。そう決まってる。ここにも最新鋭の機械がたくさんあるが、地下では人間のほうが強い。
女　地下日本憲法序文ですね。
１　知ってるじゃないか。そう。そして、世界で敵なしの日本円。キミが円の本体を見たことがなかったように、その実物はすべてこの地下にある。
女　知ってます。円の二重性です。その総量は地上と等しいんですよね。
１　そうだ。地下にも莫大なカネがある。もちろん地上同様、機械化の恩恵で物価は低い。地下の人口は５万人だ。地上に比べれば多いが、たった５万人しか居ないんだ。そして、ここでは機械よりも人間が強い。ということは、地下の人間は……？
女　……みんなお金持ち。ですか。
１　そう！　そうなんだよ。これは教科書にも書かれてないだろう。地下の人間はみんな大金持ちなんだ。末代まで遊んで暮らせる。地上の日本が繁栄すればするほど資産が増えていく仕組みだろ。そしてその繁栄はすでに約束されてしまってる。ははは。まるで無限にとれる石油だ。って、伝わらないか。まぁいい。おまけにここでも生活に必要なことは全部機械がやってくれるんだ。つまり、地下の人間は仕事なんてする必要がない。ここでは、人間は生涯消費者のまま生きていける。
女　？
１　地下では、仕事をしてる人間なんて存在しないはずなんだよ。
女　え、なんで……

男たちは、並んで女の前に立つ。

１　騙すようなマネをしてゴメンね。ケリーさん。もといＰ４２０。僕らも地上出身なんだ。

２　地上で生まれた俺たちには、地下の富は分配されない。
１　僕たちは、生きるために仕事をしている、数少ない日本人なんだよ。
女　ごめんなさい。理解が追いつきません。
１　だろうね。
女　え、え、そしたら、地上から地下に移り住む方法があるってことですか？
２　地上では大人の数が少ないだろう。
女　言われてみれば。確かに。
１　このインターンはね、地上の人間に地下に移り住むチャンスを与える唯一の機会なんだよ。
女　……。
２　一旦ブレイクにしよう。

女、放心して座っている。
男２、再びコーヒーを淹れに行く。
男１、ノルマ分のボールを完成させる。（ノーマル２つ）
製造ラインにシートが掛けられる。

女　え、やっぱり分かりません。なんでそんな選択肢が？
１　まぁ、そうだよね。
女　ていうか、その、お二人が地上から来たっていうのは分かりました。でも、だったら、なんでこんな仕事を？
１　それは、もっと難しい問題なんだよね。……ケリーさんは、何のために生きてるんだい？
２　いきなり質問が重すぎる。
１　あはは。ごめんね。うーん、そしたら、地上の暮らしに不満はない？
女　不満、ですか？　無いです。
２　そりゃそうだ。そう生きるしかなかったんだから。
１　機械の支配する世界でね。
女　それが悪意のある言い方だということは分かりますよ。
１　ごめんごめん。正解。……キミには、やりたいこととか、欲しいものとか、人生の野望とか、そういうのが無いんだ。何を言ってるかわからないでしょ。地上の人間にそんなのあるわけない。可能性を知らないから。教えられないし、固定された生活で気づくこともない。……一方で、地下で生まれ育った人間にも、逆にそんなものは存在しない。何でも叶ってしまうから。欲望なんて、ここでは意味をなさない。お金で解決できるものはね。地上の人間も地下の人間も、それぞれの毎日を、ただ、生きている。
女　はい。生きてはいます。
１　それは本当は生きているとは言わない。
女　生きてますよ！
１　いや、生きてる意味がない。
２　ひでぇ。
１　もちろん、国家全体のためになっていたり、経済を回していたり、そういう生きている意

味はある。でも、キミが、キミが生きている意味は、あるだろうか。

女　……。

1　何のために生きているのか。これは古くから度々取り上げられた問題らしいけど、今こそしっかりと議論されるべきだ。だけど、議論しうる人間が、あまりにも少ない。地上にも地下にも存在しない。地上から地下に来たごく僅かな人間だけが直面できる問題だ。人間が生きる意味、かつてそれが考えらるときには、“アイデンティティ”とか“生きがい”とかいう言葉が持ち出されたらしい。僕のインターン先で、僕の人生の師がそう教えてくれた。

女　！その人はいま、何してるんですか？

1　僕のインターン最終日に亡くなったよ。事故にあったんだ。師匠はここで、恥を売るビジネスをしていた。誇りを持って仕事をしておられたよ。けど、治療するだけの貯金は作れなかったんだ。僕はその仕事を受け継がなかった。稼げないから、という理由もあるけど、この地下で仕事を生み出すという行為は、本当に称賛されるべきことだ。だってビジネスの入り込む隙間が全然ないから。師匠は仕事中は常にイキイキとしておられた。それが生きがいだったんだと思う。僕は生きるということそれ自体の意味を深く考えさせられた。生きているということの美しさを享受し続けなければならないと思ったんだ。僕は地下で生きることを決めた。すぐにタカと出会った。いっぱい話したよ。師匠の生きがいは師匠のもの。僕の生きがいは自分で見つけ出さなきゃいけないと思った。地下の人間は、野望がない代わりにどこか喪失感を抱いてる。そこに僕らは目をつけた。彼らはみんな幸せが足りないんだ。そうして不確実な「幸せ」というものを抱えておける安心感をテーマに名付けた幸せボールは飛ぶように売れたよ。そう、キミはさっき、これを機械でもできる仕事だといったね。

女　はい。

1　作業自体は機械どころか猿でもできるかもしれない。だけど、猿でも作れるこれを、「幸せボール」と名付けて売るのは人間にしか出来ないだろう。

女　たしかに。

1　見つけ出したんだ。僕らみたいな人間が携わってもいい仕事。僕らの作ったボールを多くの人が求めてくれて、地下はいい香りで包まれた。僕らがお金を手にするだけじゃない。大きな意味のある仕事になった。と思う。でもそれだけじゃなかった。その頃の仕事はモーレツに忙しくてね。僕らは朝から晩までボールを作った。そうしたら、仕事終わりの達成感は凄まじいものだ。それが本当に心地よかった。僕たちは僕たちの生きがいを見つけたんだよ。自分たちが見つけ出した仕事。その仕事終わりの開放感。これが僕らにとっての生きる意味に思えた。うん。僕たちは、仕事のない時間を楽しむためにも仕事をしてるんだ。分からないよね。キミにはまだ理解できないと思う。もしかしたら今後も理解してもらえないかもしれないね。

女　はい。

1　ケリーさん。一般的に、仕事をする上で大事なことってなんだろう。

女　……対価があることじゃないでしょうか。

1　なるほど。

女　はい。対価は決まってることが多いから、その相対的な価値を上げるためにムダは省いた

ほうがいいし、仕事は早く終わらせたほうがいい。効率を上げる必要があります。
１　そう、そこに一つ問題がある。ここまでも難しい話をしているけれど、ここから先が肝心なんだ。僕らの仕事の哲学、それは、
２　緩慢かつ迅速に。余った時間を有意義に。
女　私の知ってる日本語じゃないですね。
１　ははは。後半は大丈夫でしょ。問題は前半の、緩慢かつ迅速っていうところだ。緩慢とは？
女　おそい。
１　迅速とは？
女　はやい。
２　矛盾だ。
１　矛盾だ。
女　矛盾です。
１　そう。でも、両方大事なんだよ。さっきキミがいった仕事の対価。僕らもちゃんとお金をもらってる。でも、それだけじゃない。僕らにとっては仕事のあとの、達成感とか自由な時間まで含めて対価なんだ。その全部を最大化する必要がある。もう、幸せボールは多くの国民に行き渡った。消耗品だから仕事がなくなることはないけど、初めよりは少なくなった。仕事がなくなると、仕事以外の時間っていうのもなくなっちゃうだろ。だから仕事はしっかり分散してこなす必要がある。
２　たくさん作っちゃダメだ。
１　あまりものが出ると充実感が損なわれる。適量を作らないといけない。
２　ゆっくり過ぎてもダメだ。
１　仕事には適度な負荷が大切でね。そうしないと充実感が得られない。
２　緩慢かつ迅速に。余った時間を有意義に。
１　バカバカしい仕事に見えると思うけど、僕たちは絶妙なさじ加減でこれをやってるんだ。

間。

女　分かったような分からないような……。
１　説明が下手でごめんね。
２　語りすぎだ。恥を知れ。
１　そんなこと言ったって。どうせいつかは説明することだろ。
女　私も生きてますよ〜。
１　生物学的には、ね。
２　失言だ。
女　失言です。
１　そうかなぁ。
女　大変なんですね。生きるの。
１　まぁ、地上に戻ってもいいんだよ。生きてはいけるし。ここで暮らすのが正解とは限らない。

女　まぁ、はい。
１　でも、個人的意見として、僕らは恵まれてると思う。もう取り戻せないけど、地上の人間も、地下の人間も終わってる。どちらが優れてるとかじゃない。かといって僕らが優れてるわけでもない。僕らは選択する自由を与えられているだけだもんね。機械どもに。それがなぜかは僕らが考えても仕方ないことだと思うけど、感謝してる。僕は毎日幸せだ。
女　そう言い切れるのは、素敵なことなんでしょうね。
１　とはいえ、ここで生きていくには、自分で仕事を見つけなくちゃいけない。僕らの仕事はあげないから。
２　まぁ、それはそうだな。
女　はい。
１　ここで生きるべき理由も見つけなきゃいけないんだ。僕らはその手助けをする。
２　ま、一週間悩みたまえ。
女　私もトマト育てようかなぁ。
２　金にならんぞ。タカハシさんはれっきとした地下出身だ。
女　そうなんですね。
１　良い人だよ。あとで挨拶に行こう。午後は地下の世界を案内するよ。
２　さ、今日の仕事も終わりだな。あー働いた。おっしゃ。Ｐ４２０、街に出るぞ。
女　ケリーでいいです。
２　そうかいそうかい。ケリー、腹減ったろ。
女　そういえば。
１　街にはいろんな食べ物がある。何を食べるか、まずはそこから悩むのがインターンのセオリーなんだ。行こう。
女　はい。

一行は工場を出ていく。

２　あ、電気消してくれ。
女　はーい。（ト、電気を消す）くらい！
２　ははははは。地下へようこそ！

終